

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
115	家庭基礎	2	1	総合学科 工業科	必修

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	生活を見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・福祉、衣食住などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価の方法	
授業・実習に意欲的に取り組み、自ら生活の課題を考え、発言する取り組みを多面的に評価する。 作品製作やワークシート、実習によって知識・技術の習得状況を判断する。 発表、グループワークによって、思考・判断・表現力について評価する。すべてを総合的に判断し、評価を行う。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	自立と家族・家庭	自分らしい人生をつくる	人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。	○		
5			自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定ができる。		○	
			生涯発達の視点で青年期の課題や現在の自分との比較ができる。			○
			家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境や変化や課題、家族・家庭と社会とのかわりについて理解している。	○		
6	着る	衣生活をつくる	被服材料、被服構成及び被服衛生について理解している。	○		
7			被服の計画・管理に必要な技能が身に付いている。		○	
			被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫できる。			○
9	子どもの発達と保育	こどもと共に育つ	乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。	○		
乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能が身に付いている。			○			
子供を生み育てることの意義について考えている。					○	
子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察している。				○		
10	高齢期の生活	高齢社会を生きる	高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。	○		
生活支援に関する基礎的な技能が身に付いている。			○			
高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察している。				○		
11	住まう	住生活をつくる	住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察している。		○	
			防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫している。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
12	消費者	経済生活を営む	消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解している。	○		
			消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう生活情報を適切に収集・整理している。			○
	ホームプロジェクト	生活に生かそう	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題が設定できている。			○
			自己の家庭生活や地域の生活と関連付けた課題について解決方法を考え，計画を立てて実践している。			○
1	食べる 食事と健康	食生活をつくる	ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質，健康や環境に配慮した食生活について理解している。	○		
			ライフステージに応じた自己や家族の食生活の計画・管理ができる。			○
			おいしさの構成要素や食品の調理上の性質，食品衛生について理解して工夫できる。		○	
			目的に応じた調理に必要な技能が身に付いている。	○		
2	生涯の生活設計	生活を設計する	生涯を見通した自己の生活について主体的に考えている。			○
			ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し，生活設計を工夫している。		○	